

最上エコポリス通信

— mogami ecopolis tsushin —

2019年8月号

山形県最上総合支庁

知事のほのぼの訪問

県民の皆さん、こんにちは!

県政運営に県民の声を活かすため、さまざまな分野で積極的に活動している団体やグループの方々と知事が直接意見交換する「知事のほのぼの訪問」が、7月5日、最上町満沢地区の「みつざわ未来創造館らいず」（旧満沢小学校）で活動する2つの団体で行われました。

🌸 たらふく工房満沢

廃校校舎を利活用した農家レストラン「たらふく工房満沢」では、地元料理に腕を振るう9名が参加。始まる前は「緊張して上手く話せないかも…」という声も聞かれましたが、さすが経験豊富な皆様方、あっという間に話に花が咲き、和気あいあいとした雰囲気での懇談が進みました。

「満沢小学校が無くなって本当にさみしい思いをした。この地区を自分たちでなんとか元気にしたいという思いで、たらふく工房を立ち上げた」と話す代表の菅さん。知事も、「皆さんが集まっていきいきと活動されることが、地域活性化の原点となる。これからも元気で頑張ってもらいたい」と激励しました。



🌸 もがみハウス（事業者：(株)ライジングサポート）

「最上町に通所型福祉施設があれば…」という利用者の声を受けて、昨年開所された「もがみハウス」。現在11名の利用者は、お菓子の製造や大豆の選別、果物ネットの梱包作業を行っています。

手慣れた様子で大豆を選別する利用者へ、知事は「今の豆は何がダメだったの?」と質問。よく見ると、確かにわずかなキズがあり、知事も感心した様子でした。

【総務課 29-1360】



知事と若者の地域創生ミーティングin最上町

若者の皆さんの声をきかせてください!

若者の豊かな発想や行動力を地域づくりに活かしていくため、知事が市町村に赴き、若者と車座になって対話を行う「知事と若者の地域創生ミーティング in 最上町」が、同じく7月5日に、「みつざわ未来創造館らいず」で開催されました。

農業経営者や福祉関係者、旅館業など様々な業種の30～44歳の若者10名が参加。高橋最上町長の進行で、各参加者が日々思うことを知事に語りました。

大石文美子さんは、自身の子育ての経験を踏まえ、「子どもが体調不良になると、夫は仕事を急に休めないで自分ばかり有給休暇を取ることで、使い切ってしまうことも。夫婦の会社同士が連携し、有給休暇をシェアできれば」と意見し、知事は「とても面白い発想。まさに『みんなで子育て』を実現することになる。取り組んでいけたらいい」と話しました。

知事は、「最上町は温泉、きれいな水、おいしい農産物と魅力がたくさんある。課題もあると思うが、住民の皆さんが集まることで、アイデアも生まれるし助け合いの輪も広がる。このような顔を合わせる機会を持ち続け、つながりを広げてほしい」と期待を述べました。

【総務課 29-1360】



第2回もがみ創生「北のゲートウェイプロジェクト」検討会

地域に必要な道の駅の機能を議論

7月9日、最上総合支庁講堂にて、第2回もがみ創生「北のゲートウェイプロジェクト」検討会が開催されました。今回の検討会では、地域の様々な分野で活動されている【ワーコム農業研究所代表取締役 栗田幸秀さん】【Berryne さいとう農園代表 齋藤優子さん】【最上地区PTA協議会母親委員長 井上美和さん】の3名を迎え、ゲートウェイとなる道の駅の機能を中心に意見を交わしました。

3名の方々からは「子供達や高校生、学生たちのアイデアを活かして農産物の販売拡大につなげられないか」「小さなお子さんがいるお母さんは、噴水広場のような遊べる場所がほしい」「専門家の意見も聞きながら進めてはどうか」などの意見をいただきました。



他、委員の方々からも、道の駅の機能として、物流の拠点となること、最上伝承野菜などの地域の農産物が提供できること、イベント会場や様々な体験ができることなど多くの意見が出されました。

いただいた幅広い意見をもとに、今後もゲートウェイとなる道の駅に求める機能と地域資源との連携を含めながら、道の駅の整備や運営主体のあり方など議論を深めてまいります。

[建設総務課 29-1391]

山形県知恵袋委員会（最上地域）

若者活躍について先輩が提言

7月2日、最上総合支庁講堂において、様々な分野でご活躍されてこられたこの地域の先輩方の知恵や知識を県政に反映するため、「山形県知恵袋委員会（最上地域）」を開催しました。最上地域在住の委員8名と、須藤最上総合支庁長をはじめとする幹部職員が出席し、「次世代を担う人づくり・若者活躍」をメインテーマに様々な分野にわたるご意見、ご提言をいただきました。

いただいたご意見、ご提言については、可能なものから順次施策等に反映してまいります。



【委員からの主なご意見、ご提言】

- 地元の中小企業の職場に関する詳細な情報を若い人たちに発信していくことで、地元に住み続けるという将来像が描きやすくなるのではないかと。
- 生まれて間もない子供を預かってくれる施設が各市町村にあると、若い夫婦が活躍する機会が増えるのではないかと。
- 自家用車を持たない高齢者でも暮らしやすい街になるように、公共施設や商業施設を公共交通機関の拠点に併設するなど、これからの街づくりに反映していくべき。

[総務課 29-1210]

鮭川村産かき氷

暑い夏もひんやり涼しく…

鮭川村川口地区の国道458号沿いにある直売所「鮭の子館」では、鮭川村産の「フルーツほおずき」や「サマーティアラ（いちご）」のかき氷を9月上旬までの限定メニューで提供しており、大好評です！

県では、地域の食の魅力を発信する拠点として、特産品を活かした商品づくりやその磨き上げ等、産地直売所の取組みを支援してまいります。

[農業技術普及課 29-1331]



7月25日、最上総合支庁講堂において、令和元年度第1回最上地域議員協議会が開催されました。地域選出の4名の県議会議員の出席のもと、最上地域における課題や施策展開について審議が行われました。



審議に先立ち、須藤最上総合支庁長から、管内における山形県沖地震の被害状況、昨年の豪雨災害の復旧状況、農作物の生育状況、若者定着・人材確保の取組み、地域の核となる「道の駅」の整備等について説明が行われた後、各議員から質疑・質問が行われ、豪雨・水害対策、交通事故対策など、各分野にわたって活発な意見交換が行われました。

【主な内容】

- ◇新庄病院における夜間及び休日診療の機能
- ◇最上地域の引きこもりの状況
- ◇通学路の交通安全対策
- ◇昨年の豪雨災害の復旧状況と防災対策

[総務課 29-1210]

シリーズ
大雨災害からの早期復旧・防災対策

平成30年8月豪雨から1年 ～河川・道路の復旧状況～

昨年8月の2度にわたる最上地域を中心とした豪雨被害から1年になります。最上総合支庁では県管理の河川276箇所、道路49箇所の災害復旧工事に取り組んできており、現在発注済みの工事のうち、河川事業では89箇所が10月末まで、道路事業では32箇所が8月末までに完成を見込んでいます。

残りの工事予定箇所についても、関係機関と調整を図りながら発注を進めてまいります。



一級河川新庄内川



主要地方道戸沢大蔵線

◆ 今後も早期復旧に向けご理解とご協力よろしく申し上げます。◆

[建設総務課 29-1391]

NPO木の建築フォーラム 第6回研究集会

中大規模木造建築に感じる可能性

7月19日、新庄市民文化会館で全国の木造建築関係の研究者や設計者等で組織しているNPO木の建築フォーラム（所在地：東京都）が主催する第6回研究集会が開催されました。このたびの研究集会は、今年5月、新庄市中核工業団地に、長さ10mまで製材できる国内最大級のJAS製材品の生産が可能な工場が竣工し、中大規模な木造建築物にも県産木材の利用が拡大していくものと大いに期待されることから、ここ最上地域で開催されたものです。

集会では、「設計を工夫したり事前に資材調達することで、中大規模な建築物でも木造化が可能である」「木造建築のほうがコスト高になっても、地域内から材料が供給され、地域内で加工流通される木材を使うことは、地域内で経済を回すことになり結果的に地域活性化につながる」などの意見が出されました。参加者にとって、中大規模の木造建築の可能性について、あらためて認識を高めることができた集会となりました。

県では、木造建築への地域材の活用が一層推進されるよう、関係者と連携して取り組んでまいります。



[森林整備課 29-1351]

第2回最上小国川鮎釣り甲子園大会

高校生の鮎釣り全国大会！

7月27日、舟形町の最上小国川一の関大橋付近を会場に、第2回最上小国川鮎釣り甲子園大会が開催されました。競技時間（3時間）内に鮎を何匹釣り上げられるかを競い合うもので、経験者は1人で参加、未経験者は2人1組となり地元の釣り名人がサポートしました。最上地域のほか宮城県からの参加者もあり、高校生52名が熱戦を繰り広げました。

この大会を通じ、最上小国川の豊かな自然の魅力と鮎釣りの文化を体験してもらうことで、ふるさとへの愛着を深めてもらうことができました。



- 🥇 早坂錬さん・泉谷琉成さん（新庄北高校：17匹）
 - 🥈 清水大聖さん・中川雄斗さん（新庄南高校：16匹）
 - 🥉 荒木拓樹さん（神室産業高真室川校：16匹）
- 同数によりじゃんけん決着



[連携支援室 29-1240]

高校生 医療福祉座談会

中学生 進路を考える学習会

目指せ！医療福祉の仕事

最上管内の高校生（参加者53名）を対象とした「医療福祉座談会」を7月9日に県立新庄北高等学校で、中学生を対象とした医療・福祉分野の「進路を考える学習会」を7月5日に新庄市立八向中学校（2年生7名）で、また7月25日に新庄市立明倫中学校（2年生71名）で開催しました。

「医療福祉座談会」では、生徒の希望職種ごとに「医師・薬剤師コース」「看護師・介護福祉士コース」「リハビリ職・技師コース」に分かれ、地域の医療機関等に勤務されている講師の方々からのお話のほか、参加した高校生からの質問にも答えていただきました。また、八向中学校では、薬剤師・看護師の方々から講話に加え体験学習を、明倫中学校では医師・薬剤師・看護師の方々から仕事内容・やりがい等のお話をさせていただきました。生徒の皆さんからは、「以前から興味があり、今回の講話をきいて目指したいという気持ちが増した」「大切な仕事だと改めて感じた」といった感想があり、医療・福祉分野への関心の高さを感じることができました。

県では、地域の医療・福祉人材確保に向け、小中学生と高校生を対象にした学習会等を今後も実施してまいります。

医療福祉座談会@新北



進路を考える学習会
@明倫中 @八向中



[保健企画課 29-1257]

地元事業所で働く先輩が仕事の魅力を語る特別授業

地元で働く魅力を知ってください！

6月27日、県立新庄北高等学校最上校において、地元の様々な職場で働く若手社員の方から、仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう特別授業を開催しました。特別養護老人ホーム紅梅荘【福祉】の伊藤瞳さん、(有)大沼産業【製造業】の結城大希さん・早坂勇祐さん、(株)ジイエムシーヒルストーン【製造業】の加藤知未さん、海藤農園【農業】の海藤鷹さんの5名の先輩にお越しいただき、この特別授業のために手作りして下さった“紙芝居”を使って、今の仕事に就いたきっかけや仕事での成功・失敗エピソード、休日の過ごし方など赤裸々に語っていただきました。



先輩方の仕事に対する想いや実際の暮らしぶり聞いて、仕事に取り組む姿勢や責任感を学ぶとともに、地元企業に対する理解が深まり、地元で暮らすことの良さを感じた生徒の方も多かったです。今後、同様の特別授業を、県立新庄南高等学校金山校などでも開催予定です。

[地域産業経済課 29-1309]

時間のオーガナイズ講座



「時間を整理」して「暮らしを見える化」

6月29日、雪の里情報館において、輝きたい女性のための時間のオーガナイズ講座を開催しました。ライフオーガナイザー®の奈良崎由美子さんを講師に、14名が参加し、普段の自分の時間の使い方を振り返りました。



- ・仕事、家事や育児で忙しく生活している毎日の中でも、自分にとって大切なことを明確にすることでムダな時間に気づくことができる
- ・自分の時間の使い方に優先順位をつけ、意識的にコントロールしていくことが大事



との話に、参加者からは、「自分の暮らしを『見える化』できてよかった」「時間の使い方を考え、意識して生活をしていきたいと思う」などの感想がありました。学んだ内容を、参加者の皆さんの今後の生活に生かしていただきたいと思います。

今年度はこのほかに、参加者同士が交流しながら地域活動などに役立つ知識や技術を身に付ける、ライフキャリアアップセミナー「Mogajo Cafe」を3回開催します。9月にも予定していますので、どうぞご参加ください。

[子ども家庭支援課 29-1245]



鮎は、川の岩についた藻を食べてることで独特な香りがするから「香魚」って呼ばれているんだって。日本が世界に誇る和食文化にも欠かせない鮎を守るためにも、きれいな川を大切にしていこうね！

*MOCO マルシェ



世界のおもちゃ大集合！遊びの大切さを実感



7月6日、ゆめりあ「花と緑の交流広場」で、MOCOマルシェを開催しました。「最上地域みんなで子育て応援団」が毎年開催しており、今年は「世界のおもちゃで遊ぼう！」をテーマとし、会場にたくさんのおもちゃを揃えました。200人を超える親子が参加し、どのお子さんも遊びに夢中になっていました。

講師にお迎えした京都のおもちゃ屋さん「キッズいわき・ぱふ」代表の岩城敏之さんから、笑って学ぶ子育てのコツについてお話しいただき、楽しい

お話に会場中に笑いが広がりました。夢中で遊ぶ子どもたちを見て、お話にあった成長する上での遊びの大切さを実感できたのではないのでしょうか。

「最上からアフリカに運動靴を送ろうプロジェクト」では、62足の運動靴が集まりました。ご協力ありがとうございました。

「最上地域みんなで子育て応援団」では、10月にお子さんが楽しめる簡単なスポーツを体験するイベントを開催する予定です。お楽しみに！

[子ども家庭支援課 29-1245]



再生可能エネルギー普及促進セミナー

持続可能な社会のために

7月23日、最上総合支庁講堂で「もがみの再生可能エネルギー普及促進セミナー」を開催しました。日本地下水開発(株)の桂木聖彦氏からは、地中熱による無散水消雪システムの施工例や再エネ導入と地域産業の活性化についてご講演をいただきました。

また、ソーラーワールド(株)の武内賢二氏からは、最上町の若者定住モデルタウンでの地域熱供給システムの事例や、オーストリアの熱供給事業について説明をいただきました。



県では、今後も再生可能エネルギーの普及に向けて取り組んでまいります。

[環境課 29-1285]

スマート農業現地研修会

担い手不足解消に向けて

生産性を飛躍的に向上させる「スマート農業」の技術開発が進んでいます。農業技術普及課では舟形町内の水田に水位センサー付き給排水制御装置を設置し、スマートフォンで遠隔操作する実証試験を行っています。7月4日には、大規模稲作農家にも参加を呼びかけて、実証圃場で実用性検討の研修会を開催しました。

県では、今後もシステム導入効果を検証してまいります。



※ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業

[農業技術普及課 29-1324]



おしらせ

「おくのほそ道 330 年記念 庄内もがみ周遊チケット」の発売について

販売：8月1日(木)～なくなり次第終了(330 セット限定)

※詳しくは最上町観光協会 HP「もがぼ」で。

場所：羽黒山山頂参集殿、戸沢藩舟番所、もがみ温泉郷（瀬見/大堀/赤倉の協賛旅館）

内容：芭蕉ゆかりの地を巡る広域周遊チケット。羽黒山五重塔内部特別拝観、羽黒山山頂儀式殿秘仏拝観、最上川舟下り、もがみ温泉郷日帰り入浴の6スポットを楽しめます。

価格：総額 4,750 円のところを、330 年にちなんで **3,300 円の特別価格**で販売。

主催：最上町観光協会（TEL:0233-43-2233）

[観光振興室 29-1311]



最上传承野菜フェア開催中！

期間：7月27日(土)～8月31日(土)

内容：最上传承野菜を使った料理の提供や販売、豪華景品が当たるスタンプラリーの実施

景品：ペアディナー券(10,000円相当)等



※詳細は最上传承野菜 HP をご覧ください⇒



[農業振興課 29-1316]

美食広場の開催について



日時：8月24日(土) 13:00～21:00
8月25日(日) 9:00～15:00

場所：きらやか銀行駐車場内

内容：最上地域の味覚の提供及び販売、観光PRを行います。ぜひ、美食広場をお楽しみください。

[観光振興室 29-1312]



新庄まつり美食弁当の販売

日時：8月24日(土)～26日(月) (要事前予約)

価格：1,500円

引換場所：山葵家北側駐車場

内容：新庄・最上地域で受継がれてきた「ごっつお」をベースに、特製のお弁当を販売します。



[観光振興室 29-1312]

最上地域みんなで子育て応援団

新庄まつり期間中、**おむつ交換スペースを開放**します。どうぞご利用ください。

日時：8月24日(土) 17:00～20:30
8月25日(日) 9:00～20:30
8月26日(月) 9:00～17:00

場所：moco's room (新庄市本町1-7 スタイルハート内)

利用料：無料

[子ども家庭支援課 29-1245]



慢性的な病気を抱えた子どもを育てる親の講演会

慢性疾患を抱えた成長過程のお子さんが、病気や治療と付き合いながら大人になっていくための準備などを一緒に学んでみませんか？講演と活動報告は、支援者の方もご参加いただけます。

日時：8月29日(木) 13:30～16:00

場所：最上総合支庁 5階 講堂

内容：○講演 「慢性的な病気との程よい付き合い方～おとなへの移行ってなに？～」

○活動報告「小児慢性特定疾病をもつ子どもの自立を支えるために」

○懇親会 「ちょっと得する話し合い」(親御さんのみ)

※準備の都合上、8月16日(金)まで事前予約(電話)をお願いします。

[子ども家庭支援課 29-1361]



発行日：令和元年8月1日

発行元：山形県最上総合支庁総務企画部総務課

総合案内窓口

電話：0233-29-1360 FAX：0233-23-2605



Twitter



HD

鮎の異名は香魚。なんでだと思う？答えはエコポリス通信の中にあるよ！

